

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 16 年 11 月 1 日～平成 17 年 10 月 31 日

テーマ：「情景空間マップ作成に関する研究」（対象地：熊本市 西里小学校）

氏名：秦 忠広 所属：九州大学 芸術工学府

## 1. 課題の主旨

近年、「地域の豊かさ」をベースにまちづくりが盛んに行われている。では、豊かさとは何であろうか。環境哲学者である桑子は、著書「感性の哲学」の中で「豊かな空間」について空間の持つ文化性と履歴、あるいは自然環境とそれを感受する人の身体的履歴とが共鳴し合う空間であると解釈している。ここで謳われている「豊かな空間」とは、「地域の豊かさ」と置き換えられ、その土地が持つ固有の履歴の認識とそこに住まう人々の日々の生活の蓄積を共有することにより共通の情景として生み出されるものが、地域アイデンティティであり、その地域の特徴・魅力となると考える。

このため本研究では、熊本市貢町を対象地とし、市立に示唆と小学校の6年生が、情報の採取者となり情景的観点から、地域評価を行いあわせて、地域住民に対する地域資源の啓発を目的としたイベントを行った。

## 2. 準備

本研究は、平成 18 年 7 月から平成 19 年 2 月までの期間に小学 6 年生を対象として行われた総合学習と平成 19 年 8 月に地域資源の掘り起こしと啓発を目的としたイベントより構成している。

- ・ 地域資源の掘り起こし(文献調査・現地踏査・ヒアリング調査)とその分析
- ・ 助成期間以前の小学校で行われた総合学習のまとめ
- ・ 総合学習の準備作業(学校・地域住民との打ち合わせ、資料作成等)

地域資源の掘り起こしと啓発を目的としたイベントの準備(市文化財課・地域住民・文化財に関する専門家との打ち合わせ、資料作成、広報活動等)

## 3. 指導方法

1) 小学 6 年生を対象とした総合学習

① 試行プログラムの実施(校内情景マップづくり)

校内情景マップづくりを通して、手法に親しみ

② 地域情景マップの作成

対象地域についての学習・地域住民ヒアリングを行い、情景を想起させる素地を養う。その後、対象地域を踏査して、情景として想起した事柄をマップに書き込み情景マップを作成する。

③ 対象地域の分析

情景マップづくりを通して、子供たちが感じ得た地域の特徴を簡易 K J 法を用いて、子供たちが分析を行った。

#### ④地域計画の作成

③対象地域の分析で読取った地域の文脈から、20年後(子供たちが大人になったことを想定)より良い地域となるための計画を策定した。計画には、具体的なプラン(ソフトとハード面)と実行主体・プランを現実化するための概算を業者ヒアリング等より算出した。

#### ⑤地域計画の報告

子供たちが策定した地域計画を父母や地域住民を対象に発表し、地域計画に対する意見を求め、20年後の対象地域について議論を行った。

#### 2) 地域資源の掘り起こしと啓発を目的としたイベント

##### ①地域資源の啓発

対象地にある寺院の掛軸を50年ぶりに開陳し、講師から説明を受けた。アンケートを実施した。

##### ②地域資源の管理運営の関するWS

子ども達を含む多様な主体の参加により、活きた寺院のあり方を検討した。

## 4. 実践内容

### 3. 指導方法と同様

## 5. 成果・効果

### 1) 小学6年生を対象とした総合学習

#### ①子供達の情景的評価

現地で直接認知する評価だけでなく、場所が持つ意味性を理解し情景を思い描いている。また、寺院など場の履歴を保っている場所では採取される情報也多岐に渡っている。

特に人々の生活がイメージされる情景については高い評価を与えている。

#### ②まち学習としての評価

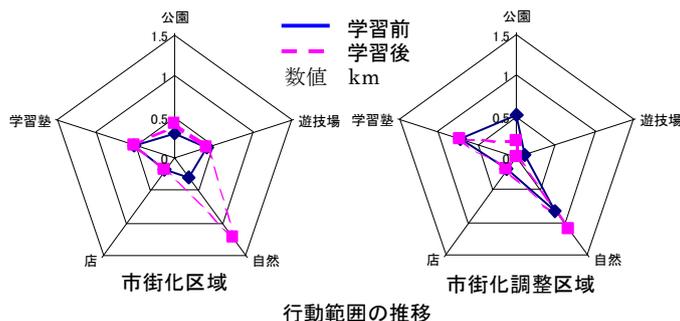
まち学習の前後にアンケート(「認知マップ」・「行動範囲マップ」・「郷土意識調査」)を行い学習後の変化を観察した。

##### i) 認知マップ(n=69)

学習前の認知度は、瑞巖寺やホテル生息地などそれぞれ4~5人認知している程度であったが、学習後は、項目数、認知度ともに格段に向上している。

##### ii) 行動範囲マップ(n=59)

特に学習後、市街化区域の子供たちが自然と接する量が増えていることが顕著に現れている。また、自然(河川や森林など)に関しては、項目総数も増えている。



### iii) 郷土意識調査 (n=51)

学習以前から、自然や校区内で営まれている農業、代表的な産業については魅力と感じていたが、本学習を通して、学び体感したことにより、歴史文化に関する項目が地域の魅力であると認識できたことが分かる。

#### 2) 地域資源の掘り起こしと啓発を目的としたイベント

掛軸を見た経験がある 60 歳以上と未満とに属性を分け、アンケートを分析した結果、身体的履歴に刻んでいることで、思い描く情景は多岐となり、愛着が増す結果となった。



## 6. 所 感

### 1) 小学 6 年生を対象とした総合学習

情景を豊かに描いてもらうことを目的に地域を踏査する前に事前学習を行っている。しかし、実際に採取された情報には、事前学習で学んだ情報が少ない。このことは一過性の座学を身につけることの難しさを表している。反面、寺院等の土地の履歴を有する箇所から採取された情報は、学習と体感が平行に行われ相乗的に情景を創出するよい例となっている。これら学習を効果的に行う上においてプログラムの検討が重要な課題となっている。

## 7. 今後の課題や発展性について

今回は、小学 6 年生を対象に地域の特徴を情景という観点から汲み上げることが目的に研究を進めてきた。しかし、実際に地域の特徴を見出すためには、その土地に豊かな身体的履歴を有している地域住民を対象に本作業を行う必要があることは、アンケート結果等より明らかである。そのため、今後地域住民を対象とした情景マップづくりを行い属性別の比較検証を行う必要がある。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

### 論文寄稿

- ・場所の履歴を活かしたまちづくり学習の可能性について、住宅総合研究財団
- ・子供の目を通したまち学習の可能性について、社団法人日本住宅協会

### 口頭発表

- ・場所の履歴を活かしたまちづくり学習の可能性について、住宅総合研究財団 2007 年 4 月、建築会館
- ・情景的観点から地域の魅力を探るまち学習の可能性について、農村計画学会全国大会 2007 年 10 月、岡山大学
- ・瑞巖時に関するイベントに関する研究、造園学会九州支部 2007 年 12 月、熊本県立大学